中部大学通信

ウプト
wpwt

ウプトとは、古代エジプトのヒエログリフ（象形文字の一種）で、「伝達する人」の意味。エジプト古王国の碑文などに見られ、19世紀初めにフランスのシャンポリオンが解読している。

［特集］新たな能力開発に大学を活用しよう。
エクステンションセンター10号館に開設！

学生のやる気をサポートするために、センターではどんな活動が行われていくのか。センター長の片岡靖夫教授にインタビュー。

［トピック］
経営情報学部と人文学部が充実。2002年4月 経営学科・心理学科開設

いよいよ来年度から始動する2学科を、いち早く、わかりやすくご紹介。

［桃園四季］
南蛮平家物語

日本で生まれた、世界の奇観書。もう一つの平家物語

ようこそわが研究室へ

次の時代は、身近な場所から始まっている。
- 経営情報学科　教授　石田昌夫
- 電子工学科　教授　葛谷幹夫

よみがえる、キャンパスのルーツ。
中部大学物語 ［シリーズ連載］「キャンパスは、もと桃畑だった」

全日本学生ハンドボール選手権で、本学ハンドボール部は決勝戦まで進出。惜しくも大体大に破れ準優勝に終わった。
（写真は11月10日の激励会の模様）

December 2001
No. 140

中部大学物語

あのとき中部大学は①

キャンパスは、もと桃畑だった。

※白線は現在の校地境界線

1959

「桃園の夢～」とは、中部大学校歌の歌い出しですが、まさに中部大学は桃園に実った“夢”でしょう。日本が高度成長期を迎えた昭和34年頃、三浦学園創立者・三浦幸平先生は、かねてから熱望していた工業技術系の大学設立のため、キャンパスとなる敷地を求めていました。学生にとって交通の便が良く、閑静で勉学や研究に適していること、そして将来拡張の余地があることを考慮した結果、3カ所あがっていた候補地の中から、当時桃畑が広がっていた現在の場所に決まりました。

まず1962年（昭和37年）、中部工業短期大学として設立され、2年後の1964年（昭和39年）4月に、機械工学科、電気工学科、土木工学科、建築学科の4学科を置く中部工業大学として開学しました。先生と学生が一体となって新しい大学づくりを進めていったのです。

［編集後記］

『中部大学通信』が『ウプト』にタイトルを改め、新聞からグラフィック紙へとリニューアルしました。『ウプト』とは古代エジプトのヒエログリフで「伝達する人」。提案者は、編集委員の内藤和彦先生（建築学科）です。『ウプト』では、皆さんが読みやすい紙面づくりに心掛け、キャンパスニュースをどんどん伝えていく予定です。何か情報がありましたら、2号館4階の広報出版室までご一報下さい。メール（shuppan@chubu.ac.jp）でも受け付けています。

中部大学通信　ウプト　No.140
発行日／2001年12月1日　発行／中部大学通信編集委員会
〒487-8501春日井市松本町1200　Tel〈0568〉51-1111（代表）　http://www.chubu.ac.jp/
お問い合わせ先
●広報出版室 Tel〈0568〉51-4465（直通）　E-mail:shuppan@chubu.ac.jp
●大学生活全般／学生部（内線2171）　●就職関連／就職指導センター（内線2221）
●入試関連／広報部（内線2131）

もう一つの平家物語「南蛮平家物語」

日本語日本文化学科　教授　安達　隆一

Ryuichi Adachi

祇園精舎の鐘の声
諸行無常の響きあり。
沙羅双樹の花の色
盛者必衰の理りあらはす。
おごれる人も久しからず、
ただ春の夜の夢のごとし。
たけき者もつゐには滅びぬ、
ひとへに風の前の塵に同じ。

有名な平家物語の冒頭である。平家物語を読まずともこの美しい響きの文章を知る人は多い。ところで、この「祇園精舎」を持たない平家物語があることをご存知だろうか。

「日本のことばと Historia を習ひ知らんと欲する人のために世話にやはらげたる平家の物語」。この長い題名を持つ「平家物語」がそれである。「世話にやはらげた」とは、「世間にはやる言葉（民衆の間に行われる言葉）によってわかりやすくした」という意味で、「話し言葉・口語に訳した」として通用している。つまり口語訳の平家物語であり、キリシタン宣教師のための日本語（口語）教科書である。この書物は、一五九三（文禄二年）、『天草学林』において、『イソポのファブラス』（イソップ物語）、『金句集』との合作として刊行された。「ボルトガル式ローマ字表記」による活字印刷であり、編纂・口訳者は日本人修道士「不干斎ハビアン」である。発行部数を示す資料は一切残っていない。キリシタン追放以降散逸したらしく、現在は大英博物館に所蔵されている一冊のみが残っているという世界の奇観書である。

ボルトガル式ローマ字表記の原著扉紙

平家物語巻首

本文は、全4巻64章からなる。琵琶法師に仮託される「喜一検校」が「右馬之允」に語るという体裁をとっている。

第一　平家の先祖の系図、また忠盛の上のほまれと、清盛の栄華のこと。
右馬之允　検校の坊、平家の由来が聞きたいほどに、あらあら略してお語りあれ。
喜一　やすいことでござる、おほかた語りまらせうず。まづ平家物語の書き初めにはおごりをきはめ、人をも人と思はぬ者はやがて滅びたといふ証跡に、

開巻第1章の冒頭である。話し言葉の雰囲気がよく伝わってくる。口訳者ハビアン（洗礼名）がこの困難な仕事を果たしたのは28歳、優れた才能である。彼は日本人知識人として数奇な運命を辿る。初めて日本人の手になるキリスト教護教書『妙貞問答』を書いた後、一転して棄教し排耶書『破提宇子』を著す。

この教科書を使って勉強した宣教師にマヌエル・バレトがいる。大英博物館に残っている書物の余白に彼による難語句の解釈の書き入れがある。遠い異国の地で、独りこの書物を机上に広げ、日本語に取り組んだ篤学の士の姿が彷彿としてくる。

CONTENTS
WPWT No.140

[桃園四季] 1
もう一つの平家物語
「南蛮平家物語」
日本語日本文化学科　教授　安達隆一
[トピック] 3
「経営学科」「心理学科」開設
[特集] 5
各自のさらなる能力アップを支援
エクステンションセンター開設
ようこそわが研究室へ 9
経営情報学科　教授　石田　昌夫
電子工学科　教授　葛谷　幹夫
「顔」 11
経営情報学科 3年　作取　克治君
A Friend from Abroad 12
電子工学科 4年　関　光信さん
わがクラブ 13
●サッカー部　松原　輝幸
●マンドリンクラブ　永井　孝志
Diary in Harvard（番外編①） 15
大学教育研究センター副センター長
助教授　三浦　真琴
私のいちおし 17
応用生物化学科　教授　谷口　肇
活躍するOB 18
平成10年度 電子工学科卒業
安藤電気（株）　千田 健司さん
CAMPUS NEWS 19
情報ひろば
ランダムショット 22
広報部広報課　中村 昭典さん
キャンパス再発見 22
創立者胸像
中部大学物語 23

中部大学は、5学部18学科の総合大学へ

2002年4月「経営学科」「心理学科」開設

学園では、かねてから経営情報学部経営学科、人文学部心理学科の平成14年4月設置について認可申請を文部科学省に対して行っていたが、去る10月31日付で文部科学大臣から設置認可を受けた。

これにより、来年度4月から2学科が正式に発足する運びとなった。募集定員は、経営学科100人、心理学科60人。推薦試験は他学科と同様11月18・19日に行われた。

経営学科 新設問答
～21世紀、経営のエキスパートが生まれる場所～

本学に経営学科ができることを知った高校2年の市太郎君が、消息通の芸都氏に様子を聞きにいきました。

市太郎：こんにちは。昨日電話でお願いした件でお邪魔しました。

芸都：やあ、久しぶりだね。まあ、上がってくれたまえ。

市太郎：お忙しそうなので、早速本題に入らせて頂いてよいでしょうか。

芸都：いや、まあ、忙しいといっても読みかけの本と、書きかけの原稿と、あと家計簿をつけるくらいだけどね。

市太郎：デフレ経済で、家計簿も大変ですね。で、新しく中部大学にできる経営学科の件ですが、経営情報学部に経営学科ができるんですか。経営学部に経営情報学科ではなくて。

芸都：そう。わたしの情報源の話だと、21世紀の時代には基礎的な情報技術を使いこなせるのは当たり前のことなので、経営情報学部という大きな屋根の下で、情報処理の基礎はきちんともったうえで、専門的に経営の問題について学習しようというねらいだということのようだが。

市太郎：ふーん。そうですか。視点が新しいわけですね。コンピュータ・リテラシーを踏まえた経営の専門家を養成しようというわけですね。

芸都：そういうことだね。

市太郎：ところで、新しい学科が増えると、その分定員が増えるから、今よりもっと入りやすくなるでしょうね。

芸都：実は、そうではなくて、今の学部の定員を新しい学科に分けるだけだから、たいして変わらないらしいよ。

市太郎：なんだ。そうなんだ。

芸都：結局新しい経営情報学科には、これまで学部内にあった分野のうちの会計学や情報科学が配置されて、新設の経営学科に、経営や経済、法律が配置されるということだ。

市太郎：法律も入るんですか。

芸都：そうだね。それぞれの学科に履修したい分野に応じてモデルができるようだよ。経営学科でいうと、「経営管理」や「経営法務」や「経営一般」のようなモデルが用意されるようだが。

市太郎：ということは、経営情報学部で法律をマスターすると、コンピュータ付きリーガルマインド携帯人間が養成されちゃうわけですね。

芸都：まあ、努力次第ではね。少なくともそういう環境は整っているわけだからね。

市太郎：すごいですね。ところで、募集は学部単位でやるんでしょうか。

芸都：いや。実はそうでなくて、入試は学科ごとに別枠なんだ。科目や配点は経営学科も経営情報学科も同じなんだけど。

市太郎：そうなんですか。もし入学して、別の学科のほうがよかったと思うようになったら、かわることってできるんでしょうか。

芸都：それもインサイダーに聞いてみたんだけど、制度的には転学科というのがあるらしいけど、そう簡単にはかわれないらしいよ。

市太郎：やっぱり受けるときによく考えておかないとだめなんですね。

市太郎：高齢化の進展状況を踏まえて言えば、ゲイトボールあたりはどうでしょうか。

芸都：ボーリでなくて良かった。司法当局も分かってくれたようだし。

（経営情報学科　教授　石田　昌夫）

経営情報学部は、情報処理と経営・会計を学ぶ経営情報学科と、経営・法務を中心に学ぶ経営学科との2学科編成となり、専門性をさらに特化させた。

心理学科 学びの心得
「自分のための心理学」

来年度4月に心理学科が開設される。今わたしの手元に心理学科のパンフレットがある。表紙のキャッチフレーズは「卒業しても、就職しても、結婚しても、どんなに幸せな人生でも、生きている限り、役立つ学問」というものである。

いささか気恥ずかしい気がしないでもないが、ある種の本質をついている、と言えなくもない。心理学という学問は他人のために存在するものであると同時に、すぐれて自分自身のためにあるものと言えよう。もちろん、どんな学問分野でもある程度は同じことが言えるだろう。しかし、心理学の場合、そうしたニュアンスはかなり強いと考えられる。

心理学を志望する受験生や在学生の心理学への期待は、多くの場合、臨床心理学であり、将来の進路希望は心理カウンセラーになることである。臨床心理士という言葉は魔法の言葉のように、心理学専攻生の心をとらえるらしい。

確かに、我々を取り巻く心理的現状は深刻なものがあり、そうした現状に対して、何らかの心理的援助業務に就きたいと考えるのは理解できることであり、社会的にも望まれることと思われる。その意味では、心理カウンセラーを目指す学生が増えることは必要であり、望ましいことでもあろう。

こうした事情を勘案した上で、なお、「自分自身のための心理学」というもう一つの側面にも、もっと配慮がなされても良いであろう。この点を本学の心理学科を受験する人たちにも十分考えてほしいとわたしは考えている。

現代のように、複雑化し、価値観が多元化して方向性が曖昧化し、矛盾を抱え込み、人間関係が不健全になった社会の中で、環境に健やかに適応していくということは、考えるほどに容易なことではないであろう。毎日のように報じられるさまざまな心に関わる病理的現象の中で、心豊かに生き抜いていくことは、あるいは、相当に難しいことかもしれない。

心についての適切な知識と訓練があれば、そうした困難にも立ち向かえるに違いない。砂漠のような現代社会の中で、オアシスを見つける、あるいは、作り上げることも可能になるかもしれない。

ところで、人がなぜ生き続けなければならないのか、簡単に言及できないが、生きている限り、幸せを求める、幸せのために生きるという考え方もひとつの見解と言えるだろう。では何があれば幸せになれるか。お金であるという人もいるだろう。豊かな物に取り囲まれることだという人もいるだろう。しかし、そうしたことが、本当に幸せの本質だろうか。わたしたちが理屈抜きに幸せと感じる条件は、心の安心感・満足感・豊かさといったことではなかろうか。

ここに自らの心理学を考える基本的意義がある。本学の心理学科を目指す人たちも他人のための心理学という視点に止まらず、自分のための心理学という観点を常に忘れずに取り組んでほしいと考えている。

（コミュニケーション学科　助教授　内田　敏志）

日本語日本文化学科、英語英米文化学科、コミュニケーション学科に心理学科を加え、人文学部は4学科体制で新年度を迎える。

[特集] 10エクステンションセンター 号館に開設

様々な能力開発の機会を活かして、自分が持つ可能性の幅を広げてみてはいかがでしょうか。

「地域に開かれた大学」をキーワードに始まった本学の地域交流と生涯学習事業は、今では講座内容も多岐にわたっています。その活動の幅を広げようと、今年4月には名称を生涯学習センターからエクステンションセンターに変更し、9月中旬には、1号館1階から新築の10号館1階学生ラウンジの隣へと移転しました。「気軽に立ち寄ってほしい」との願いから、学生ラウンジとセンターを隔てる壁はガラス張りになり、利用しやすい開放的な空間を演出しています。これを機に、平成14年度からはこれまで就職指導センターが行ってきた各種資格取得講座など学生の能力開発の企画や運営も担当します。また現在検討中ですが、大学間の枠を超えた講演会や研究会など能力開発のための情報提供も行っていく予定です。そこで、エクステンションセンター長の片岡靖夫教授と同センター常任委員の三浦真琴助教授に話を伺いました。

エクステンションセンター長
教授 **片岡 靖夫**

D・E・S・Kをコンセプトに幅広い活動を展開

――センター長、エクステンションセンターとは何ですか。

センターがコンセプトに打ち出したD・E・S・Kから説明しましょう。

DESKとは、

Development（進歩したい）は能力開発。**E**xperience（体験したい）はボランティアなど実質的な活動を通して何かを体験し、何かを獲得すること。**S**tudy（学びたい）は人間の最も基本的な知的能力の向上。**K**nowledge（知りたい）は情報をより受け入れたい、という意味です。こういった、学生をはじめ学外からの要望に応えていくのがエクステンションセンターの役割だと思っています。

前身の生涯学習センターが担ってきた「社会への貢献」を継承しながら、今度は学生の能力開発にも目を向けて活動できないかということです。本学の学生もそうですが、これから入ってくる高校や中学校の生徒、できたら小学校の児童にも目を向けて、何か支援活動ができる方法を模索していこうと考えています。今回の移転は、センターの活動と対象者の幅を広げていきたいという願いが込められています。

社会人への授業開放や学生の能力開発支援も

――新しいプログラムについてお聞かせ下さい。

具体的なプログラムについては、今年の4月から検討が始まりましたが、それらの活動は、学生部、大学教育研究センター、就職指導センター、広報部、渉外部などいろいろな部署に関連してきます。そして、それら関係部署との協力がとても大切だと思います。そこで、それぞれの部署の関係者に常任委員になっていただいて、運営委員とともに新しい企画を立案・検討していこうということです。

2001年5月～7月、中部大学名古屋キャンパスにて応用生物学部開設記念「バイオオープンレクチャー2001」を開催。応用生物学部全教員により、バイオの世界が講じられました。（右は特別講師のコーネル大学サンジェル名誉教授）

現在検討中の試みを紹介しますと、第一に、授業科目を社会人にも開放しようというものがあります。

今でも、科目等履修生、聴講生などの制度がありますが、社会人や他大学の学生が、中部大学の講義をより身近に感じて、より受講しやすいシステムにできないかということです。これは現在、強く求められている大学開放に繋がると言えるでしょう。それは各学科の先生方のご理解とご協力なくしてはできないことですが、当面は社会に向けて開放するにふさわしい科目について、実現できないかと検討しているところです。

さらに、これまで就職指導センターが学生に対して行ってきた各種資格取得講座の開講も担当することになりました。新しい講座の開講も含め、学生の能力開発の支援をしていきたいと思います。また、あるまとまりを持った連続講座や記念講座は毎年企画したいと思っています。

好評だったバイオレクチャー新企画アカデミックレクチャーもスタート

――「バイオオープンレクチャー2001」についてお聞かせ下さい。

これについては、応用生物学部長・野口忠先生をはじめ同学部全員の先生にご理解とご協力をいただきました。コーネル大学からの招聘教授による特別講演を含め、11回の講演となりました。名古屋キャンパスの会場は常に満席で実り多い記念講座になったと思っています。社会人とともに学生や他大学の学生の聴講も多く、まさに「Continuing Education」の雰囲気に包まれていました。このような講座、あるいは各部署の枠を超えた講演会など多岐に渡るようなものはエクステンションセンターで企画していこうと思っています。

また、高校サイドから大学の先生の講義を受けたいという依頼に対応するアカデミックレクチャーというものが広報部との連携で既に実施されています。大学の側から多様なプログラムを提示して高校などに活発に働きかけていきます。この「入学前教育」は、各大学が積極的に取り組み始めたことで、大学における授業体験と考えられ、中学や高校に出掛けていって、大学の先生方の研究分野を分かり易く講義するということは、将来のある生徒にとって大学で学ぶことへ向けて動機付けになるでしょうし、将来の夢に繋がるのではないかと思います。

開かれたエクステンションセンターへ10号館1階へどうぞ

―センターの今後の取り組みについてお聞かせ下さい。

社会人向けの講座のアンケートを見ると、内容のレベルも含めその要望は多様になっています。また学生の意識はというと、まさに多種多様ということでしょうか。こういった中でエクステンションセンターがどのようにその役を担っていくかは、難しいことだと思います。しかし、D・E・S・Kという基本理念のもと、地味ですができることを着実にやっていこうとセンターメンバーとも話しているところです。

学生が、学生生活や自分の能力開発について気楽に相談に来てくれるような、そして社会人も訪ねてくれるようなセンターになればいいなと思っています。

エクステンションセンターは、学生の皆さんが入室しやすい雰囲気づくりを行っています。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

サマースクール計画

―大学教育研究センター副センター長でエクステンションセンターの常任委員でもある三浦真尋先生、サマースクールの計画があるそうですが、具体的な内容について教えて下さい。

1871年、アメリカ最初のサマースクールは、ハーヴァード大学で始まりました。当初、高校の理科の先生を対象に行われていたサマープログラムも、現在は学部生、大学院生、他大学の学生、高校2・3年生対象に多様なプログラムが用意されています。海外の大学では活発に実施されているサマースクールですが、日本では、定着していないのが現状です。

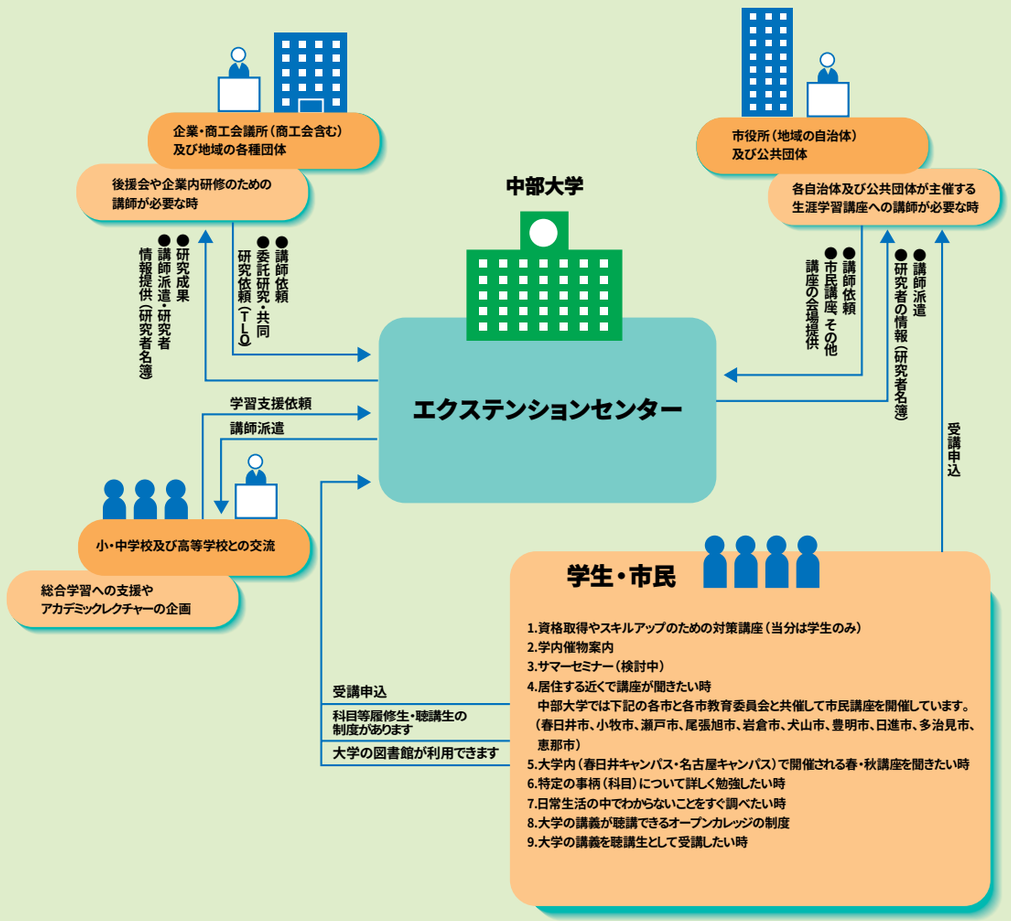
エクステンションセンターでは、夏休みの期間と大学の施設を有効に使って、普段できないような授業をできたらいいなと考えています。

まだ検討中ですが、いくつか案を申しますと、本学の学部生、大学院生に対しては、普段なかなかお話を伺うことができないような著名人による集中講義を考えています。大学院進学を希望する学生には、普段の授業とは違うより専門的なアドバンスクラスを提供したいと思います。他大学の学生や高校生もこういった授業や講演会に参加できるようにしたいですね。

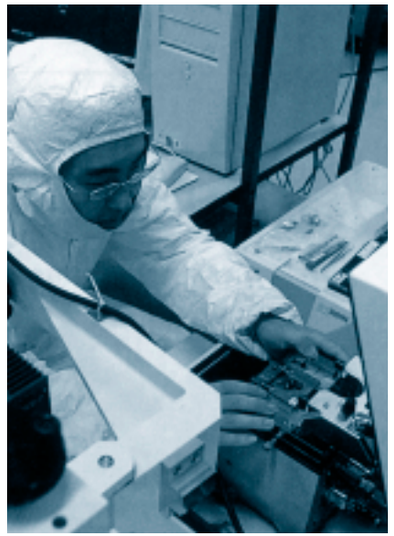
また高校の先生を対象にした講義も検討しています。教育の現場に一度入ってしまうと、普段の業務に追われてしまい、なかなか知識のリニューアルをする機会がないと思うんです。そういった方たちに、様々な研究分野の最先端のノウハウを提供することも視野に入れています。

授業だけでなく野外コンサートやフィルム上映など文化的な要素も取り入れるつもりです。夏休みの間でも、丘の上のキャンパスに活気がでるようにしたいというのが一番の願いです。

エクステンションセンターの位置づけ



ようこそわが研究室へ ⑰



Welcome to My Room!

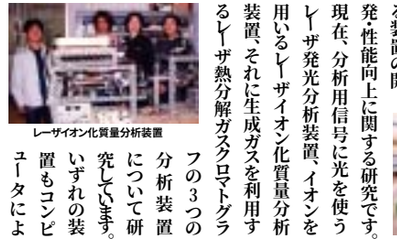
電子工学科

レーザを利用した各種装置の開発研究

教授 葛谷 幹夫

私の研究のパートナーは今年で満41歳を迎え、幼少期は随分苦労したようですが、今では立派に成長し大活躍しています。彼との出会いのきっかけは、私が中部大学に赴任したときの先輩授業の紹介で、それ以来20余年の付き合いです。パートナーの名前は〝レーザ〟。実は私はレーザを利用した各種装置の開発研究をしています。それでは、わが葛谷研究室を紹介しましょう。

研究はメインリサーチとベンチャーリサーチに分かれ、6つのプロジェクトがあります。メインリサーチは基礎開発研究を主眼においたもので、昔流に言えばアカデミックな研究です。具体的には、メガワット以上の高出力パルスレーザを物質に照射し、物質中の元素分析や組成を調べる装置の開発・性能向上に関する研究です。現在、分析用信号に光を使うレーザ発光分析装置、イオンを用いるレーザイオン化質量分析装置、それに生成ガスを利用するレーザ熱分解ガスクロマトグラフの3つの分析装置について研究しています。いずれの装置もコンピュータによるオンライン・リアルタイム分析ができ、パートナーであるレーザの高性能化のおかげで、実用化レベルに達している装置もあります。



レーザ発光分析装置

レーザイオン化質量分析装置

レーザ熱分解ガスクロマトグラフ

ベンチャーリサーチは実用面を重視したチャレンジプロジェクトです（成功すれば大金持ち）。

一つ目はレーザ指紋読み取り装置。レーザの特徴である指向性・干渉性の良さを利用して、指紋を接触あるいは非接触で採取する装置の開発です。接触型は指紋照合率100%、非接触型は目下悪戦苦闘中です。

レーザ指紋読み取り装置

二つ目は光ピンセット。レーザでミクロンオーダの物体を触らずに摘んだり、回転する装置で、現在半導体レーザを用いた、小型レーザピンセットが完成したところです。三つ目は三次元マウスの開発で、本研究室で唯一パートナーが登場しないプロジェクトです。通常のマウスは二次元並進操作しかできませんが、本マウスは三次元の並進・回転操作ができ、三次元CAD等への応用が期待できます。

光ピンセット

三次元マウス

現在18人の学生（大学院生3人、学部生15人）と一緒に、以上6つのプロジェクトを遂行しています。研究室のキーワードはレーザ、エレクトニクス&コンピュータ。

もっと詳しく知りたい方はWebページを覗いてみて下さい。そして興味が沸いたら、わが研究室のニューパートナーに！

Laser Laboratory 葛谷研究室

http://alpha.solan.chubu.ac.jp/home/kuzuya-Lab/index.htm

経営情報学科

一見無関係に思える諸現象の背後に潜む経済法則摘出への連続的営為

教授 石田 昌夫

周知のごとく、本学で「研究室」というとき、①資料や機器でカオスに満ちた教授の部屋、②教授の主宰するゼミ、の二義を持ちます。「卒研」に同種の二義があるのと類似しています。

この場では、①、②の双方について、真相の一端を公開することと致します。①の意味では、本年8月のオープンキャンパスでの「研究室紹介」で、なぜか経営情報学部からただひとつ、本研究室が選考されたことが、実像解明の糸口を与えます。人柄が多弁を躊躇させますが、オープンキャンパスの当日、「教授の研究室の神秘のベールの奥の実像に迫る」との麗句のもと、開始予定時間前から終了後まで、高校生やご父兄の絶え間のなかった来室が、事態を雄弁に物語っているようです。

②の意味に関して、当研究室は経営と情報の諸先生が群雄割拠する学部内で、経済（とくに財政）をテーマとするマイノリティであることから、経済のほぼ全領域を網羅せざるを得ない状況です。世間では経済は何をも対象とする学問だと了解され、「○○の経済学」の「○○」には「経済（学）」という言葉以外何でも含まれそうです。ゼミの中核部分が、財政という国や地方自治体の行政の探求であることから、伝統的に公務員志向の比率が高いようですが、自由テーマのため、卒研の内容は多彩です。

近年の研究成果の二つが、「失（う）せもの定理」で、これは多忙なときほど、捜し物はいつも最後にしか見つからないことを論じたものです。厳密な証明には深層心理学の専門的素養が求められますが、簡単にいえば人間は探している物が見つかれば、その時点で探すのを止めることが論拠です。テーマは自由なのですが、これまで「幹細胞の自己増殖と細胞外環境の動態的相互依存」や「n次元空間における微分可能多様体の存在問題」などの研究が出現しなかったことは幸運でした。

躍進する中部大学ハンドボール部のキープレーヤー

ハンドボール部 主将
経営情報学科 3年
作取 克治 君

全勝優勝してこそ、インカレに出場する意味があった

前日の対中京大戦に勝って秋季リーグの優勝を決めていたハンドボール部は、10月8日夜、本学体育館で長年の宿敵、名城大を相手にこの秋最後の試合を行っていた。試合開始2分45秒、中部大に最初の得点をもたらしたのは主将作取君のシュートだった。

「名城大戦前に皆でミーティングをしました。〝名城大に勝ち、全勝優勝してこそ、インカレに向けて大きな勲章になるのではないか、優勝してインカレに行こう〟と」。この大会で最優秀選手賞を獲得した作取君は、8月の西日本インカレにおいてもベストセブンに選ばれたが、個人賞に関しては「優勝するプロセスに付いてきたおまけみたいなものです」と語った。

しかし、西日本インカレには彼にとって特別の思いがあった。「春季リーグ戦も中部大学は優勝をしたのですが、僕は怪我で出場できず、チームに貢献できなかった。だから西日本インカレは意地でも優勝したかったんです。また、蒲生監督就任3年目の年でもあり、何とか結果を残したかった」

人生を変え、導いてくれるハンドボール

キャプテンであるとともに、ディフェンスの要として存在感を示す作取君。

「僕は点数を取るよりも、守る方が好きなんです。相手の攻撃を凌いでこそ得点するチャンスが生まれると思っていますから」

プレーヤーとまとめ役の二役をこなす作取君は、ハンドボールと勉強の両立に意識して取り組んでいる。「蒲生監督がよく言います。〝学校があり、勉強があるからこそ、ハンドボールもできる〟と。僕は特技推薦試験で入学したことでもあり、一年生の時は講義を理由もなく休んだりしました。しかし、監督の指導を受け、勉強がしっかりできなければ、ハンドボールも身を入れてできないと考えるようになりました」

小学校から12年間という時間をハンドボールと共にしてきた作取君の将来の夢は「ハンドボールの指導者になりたいのです。僕自身が体験し、実感してきたハンドボールの素晴らしさを一人でも多くの人たちに伝えたい」作取君とハンドボールの歩みはどこまでも続く。

自らのプレーでチームの志気を高めていく作取君。写真は練習風景。

祖父がつけてくれた「光信」は、韓国では男の子の名前です

電子工学科 4年 **閔（みん） 光信（かんしん） さん**

南大門の商店街

絵文字を書いて商売を営む人たち

Q.出身はどちらですか？

「韓国のソウルです。ソウルは都会で東京に似ています」

Q.「光」を、「信じる」とは素敵な名前をお持ちですね。

「祖父が名付けてくれましたが、「光信」という名は、日本語でも「ミツノブ」と読めるように、男の子の名前です。昔はよくからかわれました。韓国では、最初に生まれてきた女の子に男の名前を付けると、次は男の子が生まれるという迷信があります」

Q.ということご兄弟は？

「妹です（笑）。妹には女の子らしい名前が付きました。私が男っぽい性格になったのは名前のせいにちがいないと思っています」

Q.日本でひっくりしたことって何ですか？

「100円のものを買ったはずなのに、レジで105円請求されたことです。韓国にも消費税はありますが、内税なので払っている感覚がないんです。それに納豆と梅干し。納豆の糸と梅干しのにおいは今でもだめです」

Q.電子工学を勉強しようと思ったきっかけを教えて下さい。

「今まで自分がやったことのない分野にチャレンジしたかったからです。数学はそれほど得意でなかったので、『みんなよりたくさん勉強しなくちゃ』と自分に言い聞かせていました。友達や先生方が親切でいろいろ教えてくれました。そのおかげで、今では答えが一つしかない数学のおもしろさに気が付きました。今は葛谷幹夫先生のもとで、レーザマイクロプローブによるセラミックスの分析（LMA）研究をしています」

Q.授業は大変だったでしょう？

「最初は、授業の勉強ではなく先生の話し方や、文字のくせの勉強から始めました。今では、友達から『あの字、何だっけ？』と聞かれることもあるんですよ」

Q.研究テーマにレーザを選んだのはなぜですか。

「レーザがご専門の岡島茂樹先生がされている『おもしろ科学実験』などのお手伝いをしていた時、実験を始めると子供達が『わあっ！』と歓声をあげるんです。その子供達の様子を見ていると私も嬉しくて、レーザに興味を持ちました」

Q.卒業後の予定は？

「機会があれば、日本での就職を考えています。レーザとは違った分野、例えば半導体など、今度は実践の場で勉強していきたいですね」

WE LIKE SOCCER!

「サッカー」というスポーツに魅せられた男達とそれを支えるマネージャー合計29人の物語である。

「サッカー」。それは世界中で最も多くの人を魅了し、愛されてきたスポーツである。しかし、日本でこのスポーツが注目され始めたのは遅く、プロリーグも今から8年前、1993年にスタートしたに過ぎない。歴史が浅いとは言え、日本サッカーはこの間に急激な発展を遂げ、このところの盛り上がりを見れば、2002年のワールドカップ日韓共催で、更なる発展をすることは確実であろう。

そうした中、我々中部大学サッカー部も大きな変化を迎えることになった。今の4年生までは、特技推薦があり、これで入学した者が活躍し、トヨタ自動車に所属するコーチの下で東海1部リーグ優勝という目標に向かって練習した。そのおかげで同リーグ優勝という栄冠も手にしたこともあった。現在は、5年連続1部リーグ残留を果たしている。

しかし、私たち4年生を最後にサッカーの特技推薦制度がなくなり、以前までの環境とはすべてが変わった。まず後輩の部員は、すべて一般の学生から募集をかけて集めた。またコーチも失い、練習内容、試合の相手探し、部費管理などのすべてを、部員、マネージャーで行わなければならない状況になった。

そんな状況の中、1部リーグの厳しさを知る私たちと一般で入ってきた部員たちの間で、サッカー技術の基本的なレベルや取り組む意識の違いによる衝突が起こった。やめていく部員が後をたたず、一時は部の存続が危ういこともあった。

それでもサッカーを愛する気持ちだけはなくなることはなく、幾つもの修羅場を乗り越えてきた私達は、今、一つに大きくまとまり、支えになってくれた全ての人に感謝すると同時に、これまでの経験から得た自信と誇りを胸に大きな一歩を踏み出した。WE LIKE SOCCERのもとに!

サッカー部
国際関係学科 4年
松原 輝幸

弦が織りなす哀愁の響き

マンドリンクラブ
応用化学科 3年
永井 孝志

「マンドリンって何?」という疑問が多くの人たちに浮かぶと思うが、そもそもマンドリンとは、1620年頃ベネチアのPanocchiにより、リュート属(16/17世紀に流行した撥弦楽器)のマンドラから作られたものらしい。その200年あまり後、イタリアで広く普及したが、マンドリン音楽として世間に知られたのは1890年代になってからであると書かれている。その哀愁をおびた音は聞く人をなんとも言えない気持ちにさせるだろう。宣伝するわけではないが、そのマンドリンを取り扱った映画『コレリ大尉のマンドリン』(ニコラス・ケイジ、ペネロペ・クルス主演)を興味があれば是非見て欲しい。

我々クラブは、そのマンドリンに、マンドラ、チェロ、クラシックギター、ベースの音を合わせマンドリン・オーケストラとして確立している。

主に年4回ほど演奏会を行っている。具体的には4~5月に行われる他大学との合同演奏会開催、8月に行われる東海マンドリン連盟合同演奏会出演、11月に行われる三浦学園音楽祭出演、12月に行われる定期演奏会開催である。

特に定期演奏会は1年間練習した成果を披露するので、今までクラブを支えてきた諸先輩に恥じぬよう、またより多くの人に聞いてもらえるよう指揮者山中健嗣君を中心に日々練習に励んでいる。

音楽経験が少ない状態からの部員が多いが、4年生になるころには、めっきりと力をつけ一人前の演奏者となる。もちろん努力なしでは技術は身につかないが、部活に参加する努力さえあれば自然と技術が身についているものだ。

また中部大学内で練習するのではなく、他大学との交流により、技術向上、同じ演奏者としての意思の疎通などを行っている。

小さな楽器を抱えて、少しでも上達するよう練習したことや、クラブを通して知り合った多くの人々との出会いは、卒業してからも励みとなり、よき思い出となるであろう。

中部大学・名城大学合同演奏会

Diary in Harvard（番外編①）

overseas report

ボストン・ケンブリッジの歩き方

今回は番外編として、アメリカ最初の首都ボストン、そしてその古都に隣接し、アメリカ最古の大学を擁するケンブリッジ、この歴史の香り豊かな2つの街の歩き方について綴りたいと思います。

大学教育研究センター副センター長　助教授　三浦 真琴

紅葉にそまる秋

どの季節に訪れるとその街の素敵な姿を見ることができるか。これは旅を愛する人たちの中ではかなり重要なテーマとなる。

ニューイングランド地方はその美しい紅葉で有名である。東北地方や北海道、あるいは高原の紅葉が美しいのと同じ道理である。だから秋にこの地を訪れるのは正しい。できることならば「コロンバスディ」（10月第2月曜日）辺りに北国の古都を訪ねてみたい。

チャールズ川のレガッタレース

やがて長い冬となる。ボストンやケンブリッジ界隈では雪はあまり降らない。しかし一度降雪があると、湿度の低いこの地では、その翌日に積もった雪が風にさらさらと舞い、陽光に輝く美しい光景を楽しむことができる。また雪こそ少ないが零下10℃を下回ること頻繁のボストン、ケンブリッジでは街を流れる大きなチャールズ川に厚い氷が張る。その上を歩いて対岸に渡るのもよい。北国は冬にこそ訪れるのが正しいのかもしれない。サマー・タイム（正確にはタイム・セーヴィング・サーヴィス）は既に9月で終わっており、これに地軸の傾き23・4度が加わるため、北国の冬場は午後3時頃に薄暗くなる。

先住民にとっては呪うべき記念日だが、この祭日にはスクェアの至るところに出店が立ち並び、アーティスト達も挙って腕前を披露する。屋台で手に入れた多国籍料理に舌鼓を打ちながら、紅や黄に彩られた街路樹の下をくぐり抜けるように歩くのはなかなか趣があってよい。最近ではTシャツやアクセサリーの屋台の横に野外「shiatsu」も登場している。アメリカ人も肩や腰の痛みに悩んでいるのだろう。

ハーヴァード・スクェアの南から西方へブラットル・ストリートが伸びているのだが、王党派通りとも呼ばれるこの通りには、かつての豪商たちの旧家が立ち並ぶ。この豪商たちはボストン・ブラーミンとも呼ばれ、当時薄給だったハーヴァードの教員に娘を嫁がせ、名誉を財産に加えようとしたのである。その家々からは時折子どもの歓声が聞こえてくる。歴史的名勝の旧家でありながら当たり前のように人々が日常生活を営んでいるのだ。

名勝には青地に白抜きの文字が記された楕円形の看板が立っているのだが、その一つひとつを読み、歴史に思いを馳せながら、王党派通りをハーヴァードの学長邸のあるエルムウッドまで散策するのはこの上なくよい。スクェアまでの帰り道は名学長エリオットの散歩道だったチャールズ川の畔を歩くとなおよい。ここでは10月に伝統のレガッタレースが執り行われるが、まだハーヴァード・クルーのユニフォームがなかった頃、学生だったエリオット（後の名学長）が深紅色のスカーフをクルーに手渡し、ハーヴァードのメンバーであることが一目でわかるようにしたのだ。これがハーヴァードのスクールカラーのオリジンである。

朝晩の涼しさに軽井沢や新穂高を思いだすようになると、やがてハロウィーンがやってくる。街の至る所には目鼻口の形をくりぬいた南瓜が並び、ショーウィンドウには骸骨のマネキンが登場したりもする。テレビ番組は途端にホラー物が多くなる。日本のお盆と同じなのだ。この頃、衣類などは半額セールとなる。ハロウィーンの夜には大勢の人々が思い思いの衣装に身を包み、仮装を楽しむ。秋の夜長を楽しめる最後のイベントである。

11月の声を聞くと途端に街は冷え込む。耳を寒風にさらしているだけで頭痛がしてしまうほどだ。梢を彩った葉が街路の絨毯となり、しかしそれも木枯らしに吹き飛ばされ、空は鈍色の雲に覆われる。この頃ニューイングランド地方を訪れても、ひたすら冬支度に備える街には観光の目玉となるようなものはない。

冬は日ヲスターと地ビールで

クリスマスが近づくと街は一斉にデコレーションを始めるのだが、こんな時はクィンシー・マーケットに足を運ぶとよい。マーケットの名前はハーヴァードの学長ならびにボストンの市長を務めたジョサイア・クィンシーに由来する。この市場では、週末になると大道芸人や馬車が登場し、アーティストも腕を競う。ボストン名物クラム・チャウダーで暖をとりながら午後3時からのライトアップを楽しむのもなかなかによい。

ボストン名物といえばもう一つ、ロブスターである。ボストンには著名人が多数立ち寄る「ピア4」という老舗のレストランがある。その他にベスト・オブ・ボストンに輝く「リーガル・シーフード」という名店もある。しかし日本人にお薦めするのはスーパー・マーケットでロブスターを買い求め（もちろんスチームしてもらい）、そこにレモンと醤油、マヨネーズを和えて食するというスタイルである。残った殻でスープの出汁をとる。これがよいのだ。

冬の夜にはスチームで暑いほどの室内でボストン地ビール「サミュエル・アダムス」とともに是非お試しあれ。サミュエル・アダムスはボストン茶会事件の指導者であり、独立宣言の署名者であり、ハーヴァードの卒業生なのだが、今はビールの銘柄としておさまっている。このサミュエル・アダムスを片手にという訳にはいかないが、クリスマス・イブには防寒具に身を包み、夜の街を歩いてみるのもよい。街角のあちらこちらから聖歌が聞こえてくる。明るく楽しい雰囲気を楽しむばかりでなく敬虔な気持ちになることもできる。日本ではなかなか味わえないクリスマスがそこにはある。26日はボクシング・ディと呼ばれ、ハロウィーンと同じく、衣類などが半額となる。

ニューイヤーズイブは方々で花火があがり、人々は新年の到来を心から祝福する。しかし日本のように正月休みは長くない。ハーヴァードのロー・スクールは3日から授業開始なのだ。この冬枯れの頃、コミューター・レールを利用し、敢えて避暑地であるコンコードに足を延ばすのもよい。第二次世界大戦の頃にはハーヴァードの学生が疎開した地なのだが、独立戦争の火蓋が切って落とされた場所でもある。車窓には穏やかな田園風景が広がるが、日本のそれと変わらずノスタルジーを刺激する。コンコードにはバスもタクシーもないので雪に包まれた静かな街をひたすら歩くだけである。しかしここにアメリカ合衆国の始まりがあるのだと思うと、気持ちは少し高ぶってくる。博物館に立ち寄るともともと同じイギリス人であったのに二手に分かれて戦わねばならなかった悲しい戦に関する歴史や、ソロー、エマーソンといった巨頭、あるいは若草物語の著者オルコットについて学ぶことができる。コンコードに限らず、アメリカの博物館は刺激に満ち溢れていて実に楽しい。遠くケンブリッジの小学校から社会見学に来ているクラスもあった。

（次号へつづく）

応用生物化学科　教授
谷口　肇

BOOK SELECT Book

ちょっとかわったコーヒーの話
「コーヒーが廻り世界史が廻る」

白井隆一郎著　中公新書

春日井に来て2年近くになるが、関東圏に比べるとこちらは街に喫茶店の多いのが目に付く。早朝から店先の駐車場に車が並んで、時には家族連れらしい一団が入ってゆく。朝食を喫茶店でとるという独特の文化があるらしい。

喫茶店といえば先ずコーヒーだが、最近読んだ標記の本がちょっと面白かった。コーヒーの歴史を世界史と絡ませて面白く読ませる。

コーヒーは15世紀末アラビア半島の南端、現在のイエメンで生まれた。そこはお酒も禁じているイスラムの世界である。この黒い液体を最初に受け入れたのは、その中でも厳格なイスラム聖職者集団スーフィーであった。それがメッカ当局に認められるまでには多くの曲折があった。イスラム世界に市民権を得たコーヒーは、やがて中世末期のヨーロッパ世界に広がっていく。アラビアの楽園で生まれるエキゾチックな飲み物として。そしてイギリス、フランス、オランダ・・・とヨーロッパ世界にコーヒーハウスブームを起こして行く。近世ヨーロッパの市民社会はこのコーヒーハウスで生まれた、とするのが著者の主張である。イギリスの産業革命もフランス革命もコーヒー無くしては成立しなかった。ナポレオンもヒトラーもコーヒー抜きには語れない、と読んでしまうのはいささか悪乗りか。

昔、スーフィーたちは夜を徹して神への祈りをささげ、眠けを払うためにコーヒーを愛用した。私たちは、今、ストレスの多い社会の中でひとときの憩いを求めてコーヒーカップを手にする。

アラビア半島を出てジャワへ、キリマンジャロへ、あるいはブラジルへと旅を続けたコーヒーの木、コーヒーの苦味にはこの間の歴史が詰まっている。

「仕事は楽しく」の姿勢が、自分をまっすぐ成長させる

千田 健司さん
安藤電気㈱
平成10年度　電子工学科卒業

24歳、最年少で社長賞受賞

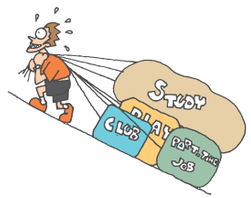
「仕事は楽しくなければ、やる気が出てきませんからね」。自分流の信念を、現代の若者らしく爽やかに語る千田さんは、安藤電気に入社して今年で3年目を迎えます。安藤電気は、情報通信関連機器や半導体の品質や精度を精密にチェックするための計測器を製造している企業です。

千田さんは、計測器分野の通信事業本部に所属。光ファイバーや光モジュールの中で光の反射点を確認し、故障や問題がどの場所、どんな状況で起きているかを調査する装置「高分解能リフレクトメータ」の改良・性能アップを担当しています。昨年、千田さんは、より精密に反射点を測るための性能アップの方法を開発、その結果も実証したものを社内で発表し、社長賞を受賞しました。

社長賞とは、月一回事業部内にて行われる『研究成果発表会』で優秀とされた論文などが、年一回会社全体で実施される『技術発表連合大会』にノミネートされ、さらにその中で最高の評価を受けて受賞できるものです。上司によれば、論理的な発表が必要となる本大会で、おそらく最年少の受賞ではないかとのことでした。

失敗があるから、より良い仕事ができる

普段、持ち前の明るさで職場を和やかにしている千田さんだが、仕事では苦い思いもしている。「自分が考えもしなかったような箇所に問題が発生し、得意先の担当者からクレームを受けることがあります」。安藤電気が取扱う測定器は、メーカーが自社製品の精度をチェックするために必要とされるもので、その要求は非常に高度になるとのこと。「そんな時こそ落ち着いて、じっくり直す方法を考えるんです。さらに良いものに改良し、要求以上のもので応えるために。後々それが必ず自分のためになっていくはずですから」と千田さんは語ってくれました。



常に今を大事にする千田さんから中部大生へのメッセージは、「時間を大切に使ってほしい。僕の口から勉強をしろとは言えませんが、遊びの時間も、アルバイトの時間も、部活動の時間も、自分のためになるように使ってください。4年間を振り返った時、何らかの進歩を実感できるように。4年間は、決して長くはないはずです」

CAMPUS NEWS

キャンパス・ニュース

台湾からの留学生 福祉住環境コーディネーター2級を取得

建築学科4年
林　玉森

住みやすい住環境のアドバイザー

日本では急速に高齢化が進んでいる。今までの住環境を考え直さなければならない。高齢者、身体障害者の視点から住環境を考えていくのは今の社会環境にとって、大切な課題だと思う。

しかし、単に高齢対応住宅の新築や増改築といっても、相談や依頼をされたらどうすればいいのか。また、依頼どおりに改修したとしてもバランスの悪いものになる可能性もある。そこで、福祉、医療、建築などといった各分野の知識を考慮した福祉住環境コーディネーターという資格が誕生した。

私がこの資格を知ったのは今年の1月だった。市販の教科書と問題集を利用して、独学で2級と3級を取得した。試験内容は高齢者の身体特性、障害および疾患別の症状と必要な介護、医療、福祉、建築及び福祉用具に関する全般的な知識から、介護保険等の福祉に関する諸制度を理解することである。一番苦労したのは高齢者や障害者の疾病と障害特性や治療法などの医学分野である。中でも留学生の私にとって、医学用語が高い壁だった。そのために、私は実際に福祉センターや福祉用具販売店へ足を運んだ。

独学を選んだ私が実際に勉強した時間は3カ月だった。時間があまりないので、学習計画を立てて、背水の陣の気持ちで毎日5時間ぐらいのペースで勉強した。2級合格者は介護保険制度による住宅改修にかかる理由書作成ができる専門職として位置づけられ、福祉、医療と建築などの分野の橋渡し役を担うことができる。

近い将来、日本だけではなく、台湾も高齢化社会を迎えることになるだろう。しかし依然として、福祉に関する法律や施設など、台湾ではまだ遅れている。私は日本の現状を調査して、対策を勉強し、将来台湾でも活かしていきたいと思っている。

福祉住環境コーディネーターについて

建築学科　助教授　**内藤　和彦**

台湾からの留学生、林玉森君が福祉住環境コーディネーター2級、3級の資格試験に合格しました。

福祉住環境コーディネーターとは、高齢者や身体障害者の人たちに対して住みやすい住環境を提案するアドバイザーのことです。医療・福祉・建築について体系的で幅広い知識を身につけ、各種の専門家と連繋をとりながらクライアントに対して適切な住宅改修プランの作成をします。また、福祉用具や諸施策情報などについてもアドバイスします。

現在、1級の資格はありません(近々設けられる予定)。2級が最も上位の資格です。介護保険等に関連した住宅改善との関わりが強く、行政等が最も着目している資格の一つです。

我が国の超高齢社会に対応させた資格で、今後、需要が増えるものと思われます。建築学科の学生に限らず皆さんも是非チャレンジしてみて下さい。

情報ひろば Campus Information

学術情報センター

大学の夏季休業中に学術情報センター内のコンピュータを最新の機種に入れ換えました。今回導入したコンピュータシステムの新機能のうち、次の2点にスポットをあて紹介します。

●CD-RWドライブ

実習室と自習室のすべてのコンピュータにCD-RWドライブを導入しました。CD-ROMのほかにCD-R(追記タイプ)、CD-RW(書き換え可能タイプ)のメディアが利用できるようになりました。ただし、CD-RWは「1~4倍速ダイレクトCDフォーマット済み」と明記してあるものを用意してください。他のタイプのものは使用できない場合があります。

●ウイルスチェックソフト

メールサーバにウイルスチェックシステムを導入しました。本学以外のところから、みなさんに届くメールの添付ファイルにコンピュータウイルスが含まれていないかどうかをチェックします。添付ファイルにウイルスが発見された場合、その添付ファイルは破棄されますがメールの本文と添付ファイルにウイルスが含まれていたことを知らせるメッセージが届きます。

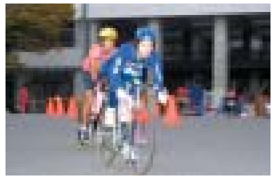
【ウイルスが発見された場合に届くメッセージの例】

「The mail message (file: filename.exe) you sent to username contains a virus. (on the network)」

このメッセージはメール(ウイルスの含まれる添付ファイル)を送信した人と受け取った人の両方に届けられます。このようなメッセージを受け取った場合は、メールを送信した人に連絡をとり、すぐにウイルスを駆除する処置をしてもらいます。その上で、受け取れなかった添付ファイルを再度送信してもらうようにしてください。

また、実習室の各コンピュータにはNorton Antivirus(ノートンアンチウイルス)を導入しました。みなさんも他の人からファイルを受け取ったり、インターネットからダウンロードしたりするときは、コンピュータウイルスに感染しないよう十分注意してください。

研究発表展



8時間自転車耐久レース

模擬店

共にはばたけ～21世紀更なる飛躍～第38回中部大学祭終わる
迎えて38回目となる中部大学祭が11月2日から3日間にわたって開かれた。今年も例年通りの「青空フェスティバル」「模擬店」「研究発表」などが人気を呼び、近隣市民も多数詰めかけていた。人気の「8耐」も今年は予通り2日午後4時にスタートした。3日はあいにく雨にたたられたが、4日にはメモリアルホールで高校生を対象とした「講演会」なども開かれた。恒例の「ホームカミングデー」は多くの先生方や卒業生で賑わった。

海外9大学から27人が入学　後期特別研修課程生
留学生別科の特別研修課程で学ぶ海外からの特別研修生の入学式が9月25日、午前9時半から海外9大学、27人の新入生を迎え、スチューデントホールで行われ、大学側から飯吉学長以下、幹部と留学生別科の教員多数が出席、研修生を激励した。

川崎恭治前教授が名誉教授に
今年3月31日に大学を退職された川崎恭治前教授に、5月25日付けで名誉教授の称号が授与された。

異文化に触れながら英語力をアップ アメリカ海外研修旅行
7月31日から9月2日までアメリカ海外研修旅行が実施され、学生16人が参加した。一行は8月24日までオハイオ大学の学生寮に滞在しながら、語学研修を受けたり、課外活動などに参加した。オハイオ大学で研修を終えた後、ナイアガラフォールズ、ボストン、ニューヨークなどの各都市を訪れた。

10号館竣工式

10号館の竣工式が9月13日午前、新装となった同館1階で行われた。

10号館は、地下1階、地上6階建、延べ6,964㎡。大小講義室、演習室、大小ゼミ室などが全部で56室あるほか、ロッカー、ラウンジ、講師控室、エクステンションセンターがある。

西日本学生選手権大会で初優勝 ハンドボール部

本学のハンドボール部が第40回西日本学生選手権大会で念願の初優勝に輝いた。大会は8月7日から6日間、福岡市で開かれ、32大学が参加した。本学ハンドボール部は蒲生晴明監督に率いられて大会に臨み、初の栄冠に輝いた。

大会ベストセブンには本学からGK・福田隆之君(機械工学科3年)、主将・作取克治君(経営情報学科3年)、香川將之君(電気工学科3年)の3人が選ばれた。

写真コンテストで中部大写真部が大健闘

朝日新聞広告部主催、「撮ってもECO写真コンテスト」が開催された。中部大学ほか4社が後援となって写真家浅井慎平氏、本学の三浦昌夫学監などが審査し、本学写真部の木下正和君(機械工学科3年)が部門賞、西井孝弘君(電気工学科2年)が佳作を受賞した。

オープンキャンパス2001 1、480人の高校生が参加

8月8日に恒例行事であるオープンキャンパスが開催され、1、480人の高校生が参加した。本年初めての企画として東海ラジオのラジオカーによる生中継と『中部大学オープンキャンパス・ウェルカムステージ』の公開録音が行われた。

Debut!

新しい先生を紹介します

(1)出身地(2)最終学歴(3)専門(4)前職
(5)主な著書または論文(6)趣味

そごう たくや
十河拓也　講師
機械工学科
(1)兵庫県
(2)京都大学大学院工学研究科博士後期課程満期退学、工学博士
(3)制御工学
(4)京都大学助手
(5)「A Limiting Property of the Inverse of Sampled-Data Systems on a Finite-Time Interval」
(6)登山、テニス、読書

おしお あつし
小塩真司　講師
(1)愛知県
(2)名古屋大学大学院教育学研究科博士後期課程修了、教育心理学博士
(3)青年心理学・性格心理学
(4)名古屋大学大学院教育発達科学研究科研究生
(5)「青年の自己愛傾向と自尊感情、友人関係のあり方との関係」
(6)読書、料理、ゴルフ

にしぐちとしふみ
西口利文　助手
コミュニケーション学科
(1)大阪府
(2)名古屋大学大学院教育学研究科博士後期課程満期退学
(3)教育心理学
(5)『成長する教師』(共著)
(6)旅行、読書、ビリヤード

たからべ か え
財部香枝　研究員
中部高等学術研究所
(1)神奈川県
(2)名古屋大学大学院人間情報学研究科博士後期課程満期退学
(3)科学史(文化人類学、博物学)
(4)三重大学非常勤講師
(5)「Samurai at the Smithsonian First Japanese visitors to Western Museum in the U.S.」
(6)映画鑑賞、散歩

CAMPUS NEWS

CN

A Voice from Abroad
海外版

「英国・ニューカッスル大学でMAを取得」

木村　良さん（平成11年度　建築学科卒）

木村良さん（平成11年度建築学科卒）が、イギリスのニューカッスル大学の大学院に進学し、わずか一年でMA（建築学）を取得した。「この留学でしか学べない貴重な体験は、かけがえのないもの」と語る木村さんに、留学中のお話を伺った。

――海外の大学院に進学しようとしたきっかけを教えて下さい。

「人と変わったことをしたかったからです。目立ちたいわけでなく、将来を平凡に終わらせたくなかっただけです。留学といえば、多くの人がアメリカを選ぶ中、イギリスを選んだのもその理由の一つです。もちろん第二にヨーロッパ建築に興味があったからですが。渡英前は、『大学院生になるにはどうすればいいか』を常に頭に入れ、いろいろな対策も考えていました」

――留学期間を教えて下さい。

「英語コースで半年、大学院生として1年過ごしました。イギリスの大学院は1年コースが多く、密度が濃い授業スタイルで、毎日授業の予習や復習、課題に追われていました。大変でしたが、振り返ってみると、何でも自分でやっていくことがとても楽しかったと思います」

――MAを手にした感想と中部大生へメッセージを。

「素直に嬉しかったです。長い間の目標だったMAを取得したという達成感と、この留学でしか学べない貴重な体験は、かけがえのないものになっています。勉強が大変で、留学中には辛かったこともありましたが、今思えば、全てが自分を成長させる経験でよかったと思います。皆さんももし、興味があるなら一度留学を考えてみるだけでも視野が広がると思います

建築家をめざすヨーロッパ各国の学生とともに。白いTシャツ姿が私です。
（現カタルーニャ工科大学大学院修士課程1年／Universitat Politecnica de Catalunya・master Metropolis）

「オランダで見た建築の未来」

吉村　有司さん（平成11年度　建築学科卒）**からの便り**

去る7月3日から7月8日オランダ、ロッテルダムで行われた Archiprix International は建築家チャールズ・コレラらによる「これからの建築家教育」と題するディスカッションで幕を開けた。Archiprix International」とは、もともとオランダ建築家協会（NAI）が国内の建築学生に向けて主催する卒業制作コンペを世界的に展開しようとしたもので今年からオランダ建築教育の中心であるBerlage Institute とNAIにより始められた。

我々はまず4人の建築家の下に4つのグループに分けられ現在オランダが抱えている都市問題がテーマとして与えられた。世界最前線の建築家（私のユニットマスターはハノーバー万博オランダ館担当MVRDVのウィニーマースの下、白熱した議論が展開されたがその建築へのアプローチの仕方は私にとってとても興味深いものであった。

そこでは建築を自然工学系つまり工学系としてよりも人文系として捉えている感がある。私が現在在籍しているUPCにおいてもその学科紹介冊子における「Architecture and Urban Culture」という言葉使いが示すように建築を文化の一端を担うものとみなしている。

そのような議論から出てきた最終プレゼンは予想だにしないものであった。ある者はビデオで、ある者はパフォーマンスで、映像でとそこには従来の建築模型と設計図といったものはほとんどなく、その日一番の拍手で迎えられたのはビデオインスタレーションで建築を衣服と絡めて提案されたものであった。それは今後、建築界の動きが見えるものから見えないものへ、つまりハードからソフトの問題へと移行せざるを得ないという建築家の未来像を予感させてもいた。知り合いになったポルトガル人が言った言葉「Architecture is not Architecture anymore」（建築はもはや建築ではない）がなぜか耳に残っている。

地中海が限りなく透明なブルーに染まる頃、またこの季節がやって来る。その時ロテルダムで目を輝かせているのは君、もしくはあなたかもしれない。

ランダムショット
Random Shot
［第107回］

広報部広報課
中村昭典さん

Akinori Nakamura

マスコミに興味があった中村さんは、大学時代、ミニコミ誌を作って、自分を売り込んだ。その甲斐あって、プロダクションの目に留まり、レギュラー番組制作のアルバイトが実現した。

中部大学のメッセンジャー

「主な業務は、受験生の女の子を口説くことかな」と茶目っ気たっぷりに応じてくれたのは、3年目をむかえる広報部広報課の中村昭典さん。「僕らは中部大学の良さを高校生に伝えるメッセンジャーなんですよ」とすぐに真顔に戻った。皆さんの中には入学前にお目にかかった人もいるのではなかろうか。

「多くの人に何かを伝える仕事がしたい」と大学卒業後、㈱リクルートに入社。会社案内などの広告制作や転職雑誌の編集を手がけてきた。

「多くの人の心を動かすことはまず、一人の心を動かすことから始まると思います」。リクルート時代に培った経験から、この子なら中部大学で勉強すれば、必ず幸せになれるということをイメージしてアプローチしているとのこと。

大学選択という人生の岐路に立つ受験生の悩みに真剣に応え、その人の幸せにどう関わるのかを大切にしてきた中村さんにとって「中部大学に入りました」という学生からの一言はとても嬉しいことだとか。「もっと嬉しいのは4年間勉強を終えた学生が『中部大学で本当に良かった』と言ってくれることですね」

家庭では一児のパパ。子供達から見た父親像を尋ねると「自分が楽しいと思う遊びしかしないわがままなパパ」ときっぱり。中村家では大人が子供の遊びに付き合うのではなく、子供が大人の遊びに付き合っているらしい。「子供は親の感情を察知するのが上手いから、親が楽しそうにしているのを見せるのが一番子供にいい影響を与えますよ」

好きな釣りは、気持ちをリフレッシュできる心地よい大事な時間。釣れても釣れなくても、それなりに楽しむのが中村流だとか。「〝釣り〟というよりは〝漁〟ですね。潮の流れに逆らわず、その時々に捕れるものを楽しみます」そんなに楽しいのならと今では奥様と二人のお嬢さんもご一緒だそうだ。

最後に中部大生へのメッセージは、大学卒業までにいかに力を付けるかが大切です。悔いが残らないように、いろいろなことに挑戦しましょう」

キャンパス再発見

若い力を見守り、未来を見続ける眼差し

【創立者胸像】

三浦学園の創立者である三浦幸平先生の胸像は三浦幸平メモリアルホールを、眺めるように建っています。

胸像が建立されたのは、昭和42年12月8日、学園の創立記念日でした。幸平先生は、名古屋第二工学校の創立から長年にわたって中堅技術者を育成した功績により、短大発足の昭和37年に藍綬褒章を、昭和41年4月には勲三等瑞宝章を受章されました。学園ではこの栄誉を記念し、創立者の胸像制作を決め、当時日本芸術院会員で後に文化功労者となった彫刻家、清水多嘉示氏に依頼しました。そして、幸平先生が喜寿を迎えた年に、現在の場所に建立されたのでした。

胸像の台座には、中部大学の建学の精神でもある『不言実行』の言葉が幸平先生の直筆で刻まれています。幸平先生は、この胸像の前で心技一体の技術教育理念の達成を誓ったそうです。それから長い年月が過ぎましたが、今も幸平先生は、中部大学に学ぶ学生たちを見守ってくれているはずです。厳しくも温かい眼差しで、若者たちが進むべき未来を見据えながら。